

第九次基本計画 中間評価（４－１）

政策目標	4 場の力が創造する魅力・活力のあるまち			
施策分野	1 観光の振興	担当課	観光課	
目 標	多くの人が訪れ、満足していただける観光都市を目指します。			

○ 目標（成果指標）の達成状況

	指 標	基準値	現状 (H25)	目標値 (H27)	これまでの 達成状況
成果指標	観光客数	659万人	647万人	680万人	C
	観光客の満足度	72%	58%	100%	C

	指 標	H23	H24	これまでの 推移
これまでの 推 移	観光客数	622万人	644万人	↗
	観光客の満足度	71%	64%	↘

○ 目標実現のための具体的な方策の達成状況

	方 策	指 標	基準値 (H22)	現状 (H25)	目標値 (H27)	達成 状況
01	地域資源を活用した観光事業の推進	年間来遊客数	659万人	647万人	680万人	C
02	おもてなしの心の育成と交流の推進	自然歴史案内人養成講座数	2講座	2講座	7講座	B-
03	外国人観光客の誘客推進	外国人宿泊客数	17,135人	23,011人	25,000人	B+
04	観光ニーズに対応した情報の発信	観光協会HPのカウンタ数	—	134万回	130万回	A
05	観光施設の高付加価値化	整備事業	6事業	16事業	12事業	A

○ 市民の皆さんと一緒に進めていく方策の実施内容

方 策	これまでの実施内容
市民イベントボランティアへの参加	・毎年14～15事業に対して延べ150人前後の市民や市職員がボランティアとして参加をいただいている。
第一次産業と連携した観光の振興	・めちやくちや市においては、第1回目から20年間農・漁協に出展をいただき地場製品の販売をいただいているとともに、産業課にて「めちや美味グランプリ」を共催し、地場製品の料理コンテストを開催している。 ・みかん農園は毎年訪問宣伝を行いみかん狩り客の誘致を行っている。

○ 目標達成に向けた今後の対応

	評価・課題	今後の対応（改善ポイント・重点化等）
成果指標	・観光客数は緩やかな右肩下がりで推移しているがこの要因の一つとして観光客の満足度も年々落ちていることが考えられる。	・観光客実態調査で来遊客のニーズは「温泉での保養」と「おいしい食事」に趣きをおいていることから、温泉街の雰囲気強化と地元グルメの創出を図る。
方策01	・毎年、新たな事業を展開している一方で効果が上がらない事業を継続して行っている。	・事業の見直しを図り、合理的かつ効果的な観光政策を進める。 ・市民提案アイデア実践事業及び大学対抗誘客プランコンテストにより新たな誘客事業の創出を図る。
方策02	・伊東自然歴史案内人養成講座においては、一定の人数が受講しているが、受講後、案内人会に入会しない人が多数を占めている。	・第2次伊東市観光基本計画に基づき、おもてなし機能の強化として市民、観光関連事業者に対し「おもてなし力」向上を図る講演会を開催する。
方策03	・東日本大震災発生時には落ち込みを見せたが、その後着実に外国人観光客の来遊者は増えている。	・県と連携しながら、インセンティブ旅行による大型訪日団の誘致に努める。 ・外国人観光客が安心して街歩きができるよう、案内板や地図等を充実させる。
方策04	・伊東観光協会HPでは、スマートフォン版を制作し、着地における情報入手の利便を図った。	・伊東観光協会HPは情報提供の有力な手段として随時更新を続けていく。
方策05	・観光施設の老朽化に合わせて修繕や改修を行い、利用者の利便の向上に努めている。	・伊豆半島ジオパークとの連携を図りながら、本市ジオサイトの整備を推進し誘客を図る。 ・観光施設及び観光施設花壇の管理については、委託先の精査を行いながら合理的な管理運営を行っていく。

第九次基本計画 中間評価（４－２）

政策目標	4 場の力が創造する魅力・活力のあるまち		
施策分野	2 健康保養地づくりの推進	担当課	観光課
目 標	住む人も訪れる人も元気になるまちを目指します。		

○ 目標（成果指標）の達成状況

	指 標	基準値	現状 (H25)	目標値 (H27)	これまでの 達成状況
成果指標	健康寿命	(H22年) 男性 74.9歳 女性 79.4歳	(H24年) 男性 75.3歳 女性 79.6歳	男性 76歳 女性 81歳	C
	体験型ツアーのプログラム数	44プログラム	(実績) 38プログラム	50プログラム	C

	指 標	H23	H24	これまでの 推移
これまでの 推 移	健康寿命	(H22年) 男性 74.9歳 女性 79.4歳	男性 75.3歳 女性 79.6歳	↑
	体験型ツアーのプログラム数	43プログラム	39プログラム	↓

○ 目標実現のための具体的な方策の達成状況

	方 策	指 標	基準値 (H22)	現状 (H25)	目標値 (H27)	達成 状況
01	健康保養地づくり事業の充実・強化	健康保養地づくりに活用する資源の創出	1事業／年	(実績) 1事業／年	年間2資源を創出	C
02	市民の健康意識の向上と健康づくりの推進	運動習慣のある人の割合	男性37.8% 女性36.7%	男性41.8% 女性37.7% (H24)	男性： 45%以上 女性： 40%以上	C
03	食育の推進	朝食欠食率	成人男性 10.4% 成人女性 11.6%	成人男性 10.5% 成人女性7.5% (H24)	成人男性： 8%以下 成人女性： 7%以下	D
04	食の安全・安心への取組	エコファーマー数	138人	120人	148人	B-
05	医観連携の推進に資する施設整備	市外在住者の健診センター利用者数	—	240人	1,000人	C

○ 市民の皆さんと一緒に進めていく方策の実施内容

方 策	これまでの実施内容
地域や民間団体による積極的な健康づくりへのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくり教室（市内民間プールと協働） ・食べ方教室（食育推進団体との協働） ・健康まつり（医師会、歯科医師会、国保連合会や各種民間団体等と協働）

○ 目標達成に向けた今後の対応

	評価・課題	今後の対応（改善ポイント・重点化等）
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> ・伊豆高原の体験施設は年々減少しているが、教育旅行の体験学習のメニューとして中京地区を中心とした中学校に好評を得ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験施設で制作した作品をイベントの演出等に利用し、相乗効果を狙う。
方策01	<ul style="list-style-type: none"> ・平成11年に設立以来、事業の成果と課題を検証し、「健康といやし」をテーマとした魅力あるまちづくりを推進している。 ・平成25年度にモニターツアーを実施した医観連携による旅館を活用した人間ドックの実用化に向け関係機関と調整が必要である。 ・核となるシンボル事業である伊東温泉健康フェスティバルの事業構築が必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第3次伊東市健康保養地づくり事業計画に基づき本市の自然、歴史、文化を活用した事業を推進していく。 ・重点項目として、伊豆半島ジオパーク構想との連携、ウォーキングコースの再整備、伊東市地産地消推進協議会との連携による食環境づくり事業及び医観連携による健康診断などのプログラムは商品化について検討し、健康づくり事業の推進を図っていく。 ・伊東温泉健康フェスティバルの実現に向けた取組みを行っていく。
方策02	<ul style="list-style-type: none"> ・健康寿命を延ばし、平均寿命との差を短縮することでより充実した人生を過ごすことがたいせつである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活を実現するため、地域のつながりを強化し、生活習慣病の発症予防のための望ましい食生活や運動習慣等の健康づくりに活動に主体的に、取り組む市民の増加を目指す
方策03	<ul style="list-style-type: none"> ・食育推進者及び食育推進団体の登録が順調に行われ、食育活動の推進のためのネットワーク化が進んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人づくり部会、まちづくり部会の定例化により、関係機関の連携を強化し、食育推進者や食育推進団体等を広く募集し、会議や研修会を通して役割の明確化、ネットワーク化を図っていく。
方策04	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイダイエコファーマーの高齢化による認定者の減少があったが、多様な作物の認定者が増加した。 ・地産地消推進協議会の設立により、関係機関の連携が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1次産業から第3次産業までの関係団体が協働し、伊東の食文化を戦略的に発信する。 ・有機農業に取り組むNPO法人と連携し、安全で安心な農産物の普及を図る。
方策05	<ul style="list-style-type: none"> ・新市民病院に健診センターを整備した。 ・医療と観光を連携させたモニターツアーを開催した。（観光課事業） 	<ul style="list-style-type: none"> ・健診センターの利用者の増加を図るため、市民病院において広報を行うとともに、来誘客についても受入を進めていく。

政策目標	4	場の力が創造する魅力・活力のあるまち		
施策分野	3	広域連携による誘客の拡充	担当課	観光課
目 標	（伊豆）地域の幅広い連携を通して、滞在型観光が可能な魅力ある観光地を目指します。			

○ 目標（成果指標）の達成状況

成果指標	指 標	基準値	現状 (H25)	目標値 (H27)	これまでの 達成状況
	観光交流客数（伊豆半島7市6町）	3,898万人	集計中	4,000万人	B

これまでの 推 移	指 標	H23	H24	これまでの 推移
	観光交流客数（伊豆半島7市6町）	3,552万人	3,832万人	→

○ 目標実現のための具体的な方策の達成状況

方 策	指 標	基準値 (H22)	現状 (H25)	目標値 (H27)	達成 状況
01 伊豆観光圏整備事業の強化・充実	観光交流客数（伊豆東海岸2市3町）	1,792万人	集計中	2,000万人	B
02 伊豆観光推進協議会の強化・充実	観光交流客数（伊豆半島7市6町）	3,860万人	集計中	4,000万人	B
03 伊豆半島ジオパーク構想の推進	ジオサイト整備箇所数	—	7箇所	15箇所	B

○ 市民の皆さんと一緒に進めていく方策の実施内容

方 策	これまでの実施内容
民間事業者の積極的な事業への取組	<ul style="list-style-type: none"> ・伊豆観光圏整備事業においては、主に公共交通機関との連携によりシャトルバスの運行実験やウォーキングイベントを開催した。 ・伊豆半島ジオパークにおいては、民間で組織する伊豆半島ジオガイド協会を設立し各地域のジオサイトを案内する支部員のジオガイド養成を行っている。

○ 目標達成に向けた今後の対応

	評価・課題	今後の対応（改善ポイント・重点化等）
成果指標	・観光交流客数については、各市町において多少の増減があるものの全体的には緩やかな右肩下がりとなっているため、再度伊豆がひとつにまとめ誘客対策を行っていく必要がある。	・各広域連携による協議会等を集約する組織づくりについて県及び他の市町と協議していく。
方策01	・各種圏域事業を展開してきたが、国の方針が変更されたことにより観光圏としての存続については解散していくことになるが、効果的な事業については存続できるように検討していく必要がある。	・効果的な事業を存続させるために各広域連携による協議会等を集約する組織づくりについて県及び構成市町と協議していく。
方策02	・伊豆地域の観光振興を図ることを目的としているが、県観光協会からの宣伝事業を主として活動しているので、今後は広域のイベント事業についても開催するよう提案していく。	・県観光協会、伊豆半島ジオパーク推進協議会等との連携を深め特色ある広域連携に努めるとともに誘客を図る。
方策03	・本市ジオサイトの整備については、県の補助金を有効に活用し整備をすすめている。	・ジオサイト整備については引き続き来遊客の利便性を高める整備を行う。

第九次基本計画 中間評価（４－４）

政策目標	4 場の力が創造する魅力・活力のあるまち		
施策分野	4 商工業の振興	担当課	産業課
目 標	活発な商工業活動が行われ、働く場が多いまちを目指します。		

○ 目標（成果指標）の達成状況

	指 標	基準値	現状 (H25)	目標値 (H27)	これまでの 達成状況
成果指標	商品販売額	(H19) 1,313億円	(H19) 1,313億円	1,380億円	—
	製造品出荷額	(H19) 132億円	(H23) 95億円	142億円	C

	指 標	H23	H24	これまでの 推移
これまでの 推 移	商品販売額	—	(H19) 1,313億円	→
	製造品出荷額	95億円	(H23) 95億円	↓

○ 目標実現のための具体的な方策の達成状況

方 策	指 標	基準値 (H22)	現状 (H25)	目標値 (H27)	達成 状況
01 商工業への支援体制の強化	リフォーム助成件数	184件	368件	200件	A
	制度融資利用件数	1,001件	208件	300件	C
02 地域の商業の活性化	商品販売額	—	(H19実績) 1,313億円	1,380億円	—
03 雇用の確保	従業者数	—	(H21実績) 32,534人	32,500人	—
04 企業誘致の取組	企業誘致に係る情報発信 件数	0	0	3	C

○ 市民の皆さんと一緒に進めていく方策の実施内容

方 策	これまでの実施内容
商店街を活用したイベントの開催	<ul style="list-style-type: none"> ・元気ある商店街づくり応援事業補助金を活用し商店街独自のイベントを実施(H23-3件) ・タウンフェスタの会場を藤の広場からキネマ・中央通りに移し実施(H24) ・キネマ・中央通りを会場とし110M綱引き合戦を実施(H25) ・商業パワー全開事業を活用し商店街独自のイベントを実施(H24-2件、H25-2件) ・商店街連盟主催の按針祭ビッグスマイルセールを実施(H25)

○ 目標達成に向けた今後の対応

	評価・課題	今後の対応（改善ポイント・重点化等）
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> ・商品販売額は商業統計調査数値であるため現時点での評価不能。（平成19年の次の調査は平成26年） ・製造品出荷量の数値の落ち込みは、直近の把握数値が東日本大震災の年であるため。 	<ul style="list-style-type: none"> ・方策01～04の積極的な実施 ・起業支援及び空き店舗対策の実施
方策01	<ul style="list-style-type: none"> ・リフォーム助成は、需要量に応じて補正対応し、切れ目のない経済対策となっている。 ・制度融資に対する利子補給対象件数は、借入事業者の減少による減 	<ul style="list-style-type: none"> ・リフォーム需要に対し柔軟に対応。 ・起業家、小規模事業者に特化した融資を新たに利子補給の対象に加え、対象者を拡充
方策02	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街の空き店舗の増加、団体としての弱体化等により、商店街の魅力が減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗の利用促進を図り、商業エリアとしての魅力アップ及び売上アップにつなげる。
方策03	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進む中、高齢者が社会参加し経験・能力を生かせる環境作りが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・シルバー人材センターが行う各種事業に対し継続して助成を行い、就労相談の充実や雇用促進を図る。
方策04	<ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致に係る具体的なビジョン、計画がないため情報発信には至らず、現状把握が不十分のため、県からの問い合わせに対応できていない。 ・県からの情報収集には努めているものの、本市の状況に合致するような企業の情報が無く、具体的な誘致の取組はできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現況を把握し、本市に適した企業誘致について協議する。

第九次基本計画 中間評価（４－５）

政策目標	4	場の力が創造する魅力・活力のあるまち		
施策分野	5	農林業の振興	担当課	産業課
目 標	意欲ある担い手が育成され、農林業が安定的に営まれるまちを目指します。			

○ 目標（成果指標）の達成状況

	指 標	基準値	現状 (H25)	目標値 (H27)	これまでの 達成状況
成果指標	耕作放棄地面積	(H20) 71ha	46ha	44ha	B+
	エコファーマー数	(H22.4) 138人	120人	148人	B-

	指 標	H23	H24	これまでの 推移
これまでの 推 移	耕作放棄地面積	53ha	49ha	↗
	エコファーマー数	100人	119人	↗

○ 目標実現のための具体的な方策の達成状況

方 策	指 標	基準値 (H22)	現状 (H25)	目標値 (H27)	達成 状況
01 担い手の育成・確保	認定農業者数	11人	12人	22人	C
02 鳥獣被害防止及び耕作放棄地対策	鳥獣被害金額	8,300千円	5,926千円	4,345千円	B
03 食の安全・安心への取組及び食育の推進	エコファーマー数	138人	120人	148人	B-
04 森林整備事業の促進	累計整備面積	192ha	268ha	300ha	B-
90 活発な農業委員会運営	利用権設定面積	4.8ha	4.8ha	6.1ha	B-

○ 市民の皆さんと一緒に進めていく方策の実施内容

方 策	これまでの実施内容
観光と連携した地産地消の推進	平成24年度に地産地消推進協議会を立上げ、伊東の食材を使った創作料理コンテスト「めっちゃ美味グランプリ」を開催し、市民、観光客から好評を得た。平成25年度に第2回「めっちゃ美味グランプリ」を開催。
市民参加の森づくり推進	<ul style="list-style-type: none"> ・健康保養地づくり事業にて、森林ボランティア団体と協力し、市民が自然とふれ合える機会を創出した。 ・地域住民等が協力して、森林の有する機能を発揮させるための保全活動の取組に対して支援した。

○ 目標達成に向けた今後の対応

	評価・課題	今後の対応（改善ポイント・重点化等）
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> ・耕作放棄地再生利用交付金を利用した再生事業を行い、優良農地が再生された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・耕作放棄地再生事業の継続。
方策01	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人郷組が運営する担い手育成型市民農園の開設により、就農希望者の研修の場ができた。 ・新規就農者への支援体制が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者への支援体制の構築。
方策02	<ul style="list-style-type: none"> ・あいら伊豆広域有害鳥獣対策協議会を中心に被害防止に努めた。 ・住環境被害に対し、緊急雇用創出事業を使った、臨時職員による箱わな捕獲を実施し成果を上げた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急雇用創出事業の成果を踏まえた箱わな捕獲の継続。 ・猟友会及び農協わなの会との連携。 ・伊豆地域有害鳥獣被害対策連絡会における情報交換。
方策03	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイダイエコファーマーの高齢化による認定者の減少があったが、多様な作物の認定者が増加した。 ・地産地消推進協議会の設立により、関係機関の連携が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1次産業から第3次産業までの関係団体が協働し、伊東の食文化を戦略的に発信する。 ・有機農業に取り組むNPO法人と連携し、安全で安心な農産物の普及を図る。
方策04	<ul style="list-style-type: none"> ・森の力再生事業を中心に森林整備が図られ、地域住民や森林ボランティアと協同した市民参加の森づくりが推進できた。 ・松くい虫防除について、城ヶ崎海岸を保全松林として計画的に予防剤注入を行っており、松枯れがほとんど見られなくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・森林ボランティアや地域活動組織が行う事業を支援し、多くの一般市民が気軽に森づくりに参加できる環境を整える。 ・松くい虫防除は、業者発注による予防剤注入を計画的に行うとともに、地元ボランティア団体への薬剤提供による協働活動を行う。
方策90	<ul style="list-style-type: none"> ・新規の利用権設定を行い利用集積を図った。 ・貸し手はあるものの農地が荒れている所も多く利用集積に結びつきにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・耕作放棄地再生事業を利用するなどして、利用集積を図る。

政策目標	4	場の力が創造する魅力・活力のあるまち		
施策分野	6	水産業の振興	担当課	産業課
目 標	意欲ある担い手が育成され、水産業が安定的に営まれるまちを目指します。			

○ 目標（成果指標）の達成状況

成果指標	指 標	基準値	現状 (H25)	目標値 (H27)	これまでの 達成状況
	水揚数量		(H21) 6,422トン	4,324トン	6,400トン

これまでの 推 移	指 標	H23	H24	これまでの 推移
	水揚数量		7,014トン	4,980トン

○ 目標実現のための具体的な方策の達成状況

方 策	指 標	基準値 (H22)	現状 (H25)	目標値 (H27)	達成 状況
01 担い手の育成・確保	漁業者数	367人	330人	380人	C
02 安定した漁業の推進	水揚げ高	1,218百万 円	858百万円	1,140百万 円	C
03 魚食の普及	魚おろし方教室参加者数	164人	149人	200人	C

○ 市民の皆さんと一緒に進めていく方策の実施内容

方 策	これまでの実施内容
観光と連携した地産地消の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・めちゃくちゃ市で、地元食材を使った海鮮汁の無料配布を行った。 ・第2回めちゃ美味グランプリを開催し、市内4団体が出店し、地元食材を使った新商品を競い合った。

○ 目標達成に向けた今後の対応

	評価・課題	今後の対応（改善ポイント・重点化等）
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> ・水揚げ数量の減少については水産資源の減少及び気象条件等の影響が考えられる。 ・成果が表れにくい指標であるが、成果指標の達成を目標とすることで、目的を明確化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・未利用魚等の有効利用促進 ・加工品の開発及び販路拡大 ・地産地消推進協力店舗のPR
方策01	<ul style="list-style-type: none"> ・水産業共同施設を整備する漁協に対する補助を行い漁業者の利便を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基幹漁法である定置網漁業従事者を充足させる。 ・伊東港静海地区の老朽化した船台を更新する。
方策02	<ul style="list-style-type: none"> ・サバのすり身を使った商品開発により、Fish-1グランプリにおいて準グランプリを獲得するなど、漁協の積極的な取組により魚価の安定化が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・放流事業を推進し、つくり育てる栽培漁業を推進する。 ・サバのすり身を使った新商品の開発 ・スーパー直販等の流通経路の拡大
方策03	<ul style="list-style-type: none"> ・中・高校生及び子育て中の母親を対象にした魚おろし方教室を開催し、魚食の普及を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・魚おろし方教室の開催 ・水産業振興会や地産地消推進協議会によるイベント等における魚食の普及、地産地消